

世田谷区基本構想審議会第2部会（第3回）

会議録

平成24年6月20日

世 田 谷 区

世田谷区基本構想審議会第2部会（第3回） 会議録

【日 時】 平成24年6月20日（水） 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】 世田谷区役所第3庁舎3階 ブライトホール

【出席者】

■委 員 松島茂（部会長）、小林正美（副部会長）、永井多恵子、永井ふみ、高橋昭彦、村田義則、上島よしみ（第1部会）、上野章子（第3部会）、田中優子（第3部会）、宮本恭子（第3部会）、吉川仁（外部学識経験者）以上11名

■ 区 小田桐政策企画課長、田中政策研究担当課長、澤谷財政課長、笹部政策経営部副参事、吉田政策経営部副参事、笹本災害対策課長、花房文化・国際課長、柳原環境計画課長、竹内環境総合対策室副参事、大石工業・雇用促進課長、松村都市計画課長

【会議公開可否】 公開

【傍 聴 人】 16人

【会議次第】 議 題

- 1 第2部会の検討テーマについて
街づくり、防災
- 2 その他

【配付資料】

- 1 街づくり
- 2 防災
- 3 委員提出資料

午後6時30分開会

（事務局・吉田政策経営部副参事）

- ◆ 定刻になりましたので、基本構想審議会第2部会を開催いたします。部会長よろしくお願いいたします。

（松島部会長）

- ◆ ただいまから基本構想審議会第2部会第3回目の会合を開催したいと思います。よろしくお願いいたします。初めに事務局より本日の出席委員の確認をお願いいたします。

（事務局・吉田政策経営部副参事）

- ◆ それでは、事務局から本日出席委員の確認をさせていただきます。お手元の座席表をご覧ください。一枚おめくりいただきますと、部会名簿です。本日、飯田委員、桑島委員が所用により欠席のご連絡をいただいております。永井多恵子委員、永井ふみ委員は遅れるとのご連絡をいただいております。また本日、外部委員として吉川委員をお招きしております。この他に他部会からの出席委員として、第1部会より上島委員、第3部会より上野委員、田中委員が出席しております。宮本委員は遅れるとのご連絡をいただいております。事務局からは以上です。部会長お願いいたします。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。本日は、外部委員として防災の専門家でおられる、元首都大学東京都市環境学部特任教授の吉川仁さんにお越しいただいております。ご挨拶をお願いいたします。

（吉川委員）

- ◆ 吉川仁でございます。このような席に慣れておりませんが、よろしくお願いいたします。

（松島部会長）

- ◆ では、引き続きまして事務局から資料の確認をお願いいたします。

（事務局・吉田政策経営部副参事）

- ◆ 本日もお配りしております資料の確認をさせていただきます。世田谷区基本構想審議会第2部会（第3回）の資料をご覧ください。こちらが本日の議題となります。1枚おめくりいただきますと、資料1として、街づくりの資料としてホッチキスで留めてあるものがございます。資料2として、防災関連の資料2-①、資料2-②、資料2-③を作成しております。

- ◆ 委員提供資料として資料3-①は、吉川委員から、資料3-②は小林副部会長からの提供資料となります。お手元にお揃いでしょうか。以上でございます。

（松島部会長）

- ◆ それでは本日の議題を申し上げます。本日の第2部会では、街づくりと防災の2つのテーマを中心にご議論いただきたいと考えております。次回以降のスケジュールですが、第4回では、環境・エネルギー、芸術文化というテーマについてご議論をお願いしたいと思っています。第5回では、これまでの議論を踏まえて第2部会に関する統括的な議論を行っていきたいと思っています。
- ◆ 秋から本審議会の開催が予定されておりますが、ここでは第2部会のこれまでの意見を踏まえて進めていきたいと思っています。
- ◆ それでは、事務局から資料の説明をお願いしたいと思います。

（事務局・吉田政策経営部副参事）

- ◆ 街づくりにつきましては、都市計画課長松村より、防災につきましては、災害対策課長笹本より続けてご説明させていただきます。

（松村都市計画課長）

- ◆ 都市計画課長の松村です。よろしくお願いいたします。
- ◆ それでは配布資料についてご説明いたします。本日、都市整備のそれぞれの分野に関連します現況のデータなどの資料をいくつかご用意いたしました。議論の材料としてご活用いただければと思います。パワーポイントか、お手元の資料のどちらかをご覧くださいと思います。まず、世田谷区都市整備方針では、区民の日常生活における地域のシンボル地区として、図に示しております13の地区を地域生活拠点とし、このうち商業・文化、行政機能などが集積した都市の核として、下北沢駅、三軒茶屋駅、二子玉川駅周辺地区を広域生活拠点に位置づけています。右側にありますデータにつきましては、広域生活拠点と主な地域生活拠点の各駅の乗降客数並びに駅周辺の小売事業所売場面積を示しています。
- ◆ 次のページにいきまして、こちらは土地利用の調査データから、建物の棟数の密度を示しています。左側の棒グラフにつきましては、23区の比較になり、世田谷区は平均的な棟数密度になっています。右側は町丁別の棟数密度で、色が濃いところが密度の高いところということで、主には北東側の密度が高いという状況です。
- ◆ 次のページをご覧くださいと思います。こちらは、左が土地利用別の建物棟数のグラフです。全棟数の9割以上が住宅関連の用途で占めています。右側の折れ線グラフですが、こちらは土地利用の構成比の推移を示しています。一番上の濃い紺色の部分が独立住宅で、ほぼ横ばいです。ピンク色の部分が集合住宅で、増加しています。

一方で、水色、紫色の線は空地系、農地系であり、これらは減少傾向です。

- ◆ 次のページをご覧ください。道路は車や人の移動だけでなく、都市のライフラインの収容やまちの骨格形成、都市の景観、防災機能など様々な役割を担っていますが、区内に占める道路面積の割合を示す道路率を23区で比較したものが左上の棒グラフになります。濃い青色で世田谷区が出ていますが、道路率は約14%で、23区の中で19番目と低い状況です。右側は町丁別の道路率を表した図です。区内では特に環状8号線、主に西部地区に道路率の低いところが多いということが分かります。
- ◆ 左下の円グラフですが、こちらは道路延長を集計したものです。一般的に円滑な消防活動のためには、幅員6m以上が必要と言われていますが、6m未満の道路は、約6割を占めている状況です。
- ◆ 次のページにいきます。区内の骨格的な道路網である都市計画道路について説明いたします。左上の図ですが、都市計画道路の整備状況を示しています。実線が完成、太めの破線が概ね完成、丸の点線が事業中、細かい破線が未完成ということです。青い太い線の幹線道路、こちらは区内の9割近くが出来上がっていますが、赤い線の地区幹線道路、補助線街路といわれていますが、こちらは計画延長92kmに対して完成は35%に留まっているという状況です。
- ◆ 右上の棒グラフにつきましては、各区の都市計画道路の整備率を表しており、区内の整備率は約5割、23区中21番目ということです。
- ◆ 左下の図では、延焼遮断帯として指定されている都市計画道路の整備状況を表しています。区内では延焼遮断帯の未整備な箇所がところどころ残っているという状況です。
- ◆ 次のページをご覧ください。公共交通サービスです。左の図面で、色の塗られていない白く残っている部分が、いわゆる公共交通不便地域を示しています。右側の図につきましては、こうした公共交通不便地域の解消、世田谷区で不足している南北交通の強化を目指して、駅と駅、駅と地域を鉄道、バス、タクシー、あるいはレンタルサイクル等で結ぶ交通ネットワークの考え方を示した図です。
- ◆ 次のページにまいります。緑、公園です。区ではみどりとみずの基本計画で、世田谷区制100周年となる2032年に緑率33%の達成を目指す、世田谷みどり33を目標に掲げています。左上の棒グラフを見ますと、緑被率が22・9%と、23区では練馬区に次いで多い数値です。推移を見てみますと、左下の折れ線グラフですが、こちらはみどり率という世田谷区独自の指標を使っており、緑被率に公園内で緑に覆われていない部分や河川等の水面面積を加えたもので、世田谷区のみどり率は平成23年の調査で24.6%、前回の平成18年度調査より0.96ポイント減少ということです。減少の主な要因としては、先ほどの土地利用の推移でもありましたが、民有地のみどりが宅地化で減少しているというところが大きいとされています。右側は世田谷区内の町丁目別のみどり率の分布です。色の濃い、あるいはさらに破線のついているところが緑率の高いところということで、環状8号線より外側の緑率が高く、都心に近づくほど緑が

減少していることがわかります。

- ◆ 次のページでございます。見にくくて申し訳ないのですが、都市公園等の配置図になります。世田谷区には平成24年4月1日現在で、都立公園が4箇所、区立公園、身近な広場は合わせて509箇所あります。公園等の面積は約合計254ヘクタールです。公園面積率は4.36%、区民一人当たりの公園面積3.01㎡で、23区比較で言いますと、公園面積率は14番目、一人は当たりの公園面積は15番目とまだ低い位置にあります。
- ◆ 最後に防災面ですが、地震に関する危険度等は、後ほど笹本課長から説明いたしますので、私の方からは豪雨対策について説明いたします。近年都内では50mm/hを超えることが多くなっています。図が小さくて申し訳ないのですが、世田谷区における過去に発生した浸水箇所を図上におとした、浸水概況図です。色別が分かりにくいと思いますが、毎年区内のどこかで浸水被害が発生している状況です。特に平成17年9月4日には、23区の西部を中心に時間100mmを超える集中豪雨があり、世田谷区内でも野川、仙川、あるいは下水道から水が溢れ、床上浸水が221棟、床下浸水245棟と甚大な被害が発生しました。こうした浸水被害を軽減するため、区では平成21年度に豪雨対策基本方針並びに行動計画を策定して、各種の豪雨対策に取り組んでいるところで、私の方からの説明は以上です。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。では、続いて笹本課長からご説明お願いいたします。

（笹本災害対策課長）

- ◆ 災害対策課長笹本と申します。よろしくお願いいたします。私の方からは資料2-①～③について説明させていただきます。
- ◆ 資料2-①です。こちらでは、首都直下地震による被害想定と比較ということで、平成24年4月18日に東京都が発表しました、東京都の新たな被害想定の中で、一番被害が大きいと言われる首都直下地震について世田谷区内での被害の状況を分かりやすいようにまとめたものです。一番目の条件ですが、冬の夕方18時に、前回は15メートルでしたが、風速8メートルの時に地震が起こったという想定です。
- ◆ 今回の想定では、震源の場所、深さが従来の想定よりも浅くなるということで、その分2番目に書いてあります震度の6強で揺れる面積が前回想定でほとんどなかった所が66.8%、残りの33.2%が震度6弱で揺れるという想定になっています。
- ◆ その下の段の人的被害の中でも、死亡者数が前419名から655名ということで、プラス236名となっています。また、人的被害の欄の一番下にあります負傷者につきましては、プラス100人という想定ですが、カッコ内に示してあります重傷者については932名から1,366名ということで、434人増えています。

- ◆ 3番目の項目の建物被害ですが、こちらは揺れと火災による全壊、全焼の枠です。従来よりも揺れによる全壊が2,227棟増えています。また火災による全焼については、8,096棟の減少という結果になっています。
- ◆ 4番目がライフラインの被害です。平成18年想定時以来、今回の想定では、一番右側にあるように停電率のプラス2.5%から下水道管のプラス4.8%まで、一桁台の増減となっています。
- ◆ 最後のその他です。私どもが最も気にかけていた部分ですが、避難者数が前回の想定では270,000人ほどだったところが、今回242,390人になっています。カッコの中に書かれていることがポイントで、これは避難所で生活する方、実質避難所で寝泊りする方の数字になりますので、前回の180,000人から157,553人ということで、マイナス22,839人となっています。ここの数値が大幅に増えてしまいますと、区としては避難所のキャパシティの問題ですとか、備蓄資材、例えば食料、水などについて対策を考えなければならないところでしたが、減少ということで、この部分に関しては特段大きな見直しをする必要はないと考えています。またその下にあるエレベーター閉じ込め台数から震災廃棄物まで様々な数値が東京都より示されています。
- ◆ これに対する区の対策ですが、資料2-③をご覧ください。3.11以来、区の災害対策としては、今までの災害対策を全て見直すということで、こちらに書いてあります80項目について様々な点検を行ってきました。その結果が右半分の主な取組みということで、平成23年度、24年度以降、これらの対策を行い、一番右端の今後の防災計画ですとか、BCP、または職員の行動マニュアル等に反映させていこうと進めています。今回の被害想定を受けて、この総点検の内容について優先度をつけて進めていこうと考えています。説明は以上です。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。
- ◆ それでは専門家のご意見をいただいた後、それを踏まえて議論したいと思います。防災について吉川委員からプレゼンテーションをお願いします。

（吉川委員）

- ◆ 吉川でございます。防災の専門家と呼ばれるとこそばゆいのですが、過去の都市防災、都市計画における防災分野について取り組んできました。基本的にはいろんなことをお話ししたいと思っていますが、資料に則して10分弱簡単にお話できればよいと思います。
- ◆ 3.11の東日本大震災をどのように教訓として見るか、私の見方でいくと、災害と事故は別な話で、事故は明らかに人為的な原因が起因するものということで、自然に伴う災害との付き合い方についてお話ししたいと思っています。最初に申し上げたいのが、

専門家は信用できないし、使い方があるということを感じます。

- ◆ そういうところで、私が呼ばれて何を話そうかと思うのですが、防災の場合は基本的に自分のまちを守りたい、命を守りたいというベクトルがあって、それに対して過去がどうだった、技術的にはこのような事がありますとかといったことをお話することはできるわけです。この本体の方々がいない段階で、専門家が想定してああすべきだ、こうすべきだと言うべきではないと思います。だいたいそういう専門家が言った通りに起これば、災害にはなっていないということがあります。
- ◆ しかし、まずは行政や専門家を頼ることは最後にして、まず自分達でどうやって街を安全な環境にしていくかという意思を確認していただかないといけないと思います。2つ目は、世田谷にとって大津波とは何かということです。それにどう向き合うかという問題がありますが、これは世田谷区ありませんが、私たちの国土というのは、非常にある意味風光明媚、季節が変化する恵まれた地域です。温泉もあります。逆にそれは自然の力がもの凄く強いということです。そう考えると、いつも災害と付き合いながら私たちの文化は進んできたということです。そういう中で、経験したことには対応できても、未経験のことには対応できない。常に自分たちの知恵を超えるものが出るのではないか。それから3つ目、事前に準備していないことは、恐らく災害の時には対応できないということです。準備していても自分たちの予想を超えるものがあると、事前に頑張っていないと出来っこない。過去の災害を見ていると、やはり頑張っていないところはかなりひどくやられています。頑張っているところはそれなりに対応できています。私たちは3.11ばかりに目を向けがちですが、基本的に災害が私たちの生活に教えてくれることはいくつかあります。災害は常に自分たちの弱いところに被害を出すものです。例えば物的な問題、空間的にちまちましているようなところ、社会的に弱いというか、堪えている人の方に強く被害として出ます。災害の階層性という言い方もあります。それから災害の時代性という問題もあります。過去に経験したことがそのまま起こることもありますし、そうでない場合もあります。時代と共に進化するということです。一方人間は基本的に忘れる動物です。忘れたところに被害を受けることもあるので、時代とともに違う様相をします。それから、これは皆さんに申し上げにくいのですが、誰しもが正常化の偏見を持っています。つまり、私は大丈夫であると考えてしまう。そのあたりを含めて、私たちは災害に取り組んでいかなければいけないだろうと思います。
- ◆ 2番目に世田谷区で起こりうる被害と被害想定に関する意見を申し上げます。被害想定をマスコミが大きく取り上げて、それ以降はあまり取り上げられなくなるということがあります。それが防災の日だったり、震災の日だったりすれば別ですが。実は災害の啓発という意味もないわけではないのですが、むしろいわゆる地域防災計画、つまり公助を定めた行政として取り組むべき防災対策の水準といいますか、目標、そこまでがんばりますと記載されているのが問題になっているわけです。では、自助や共

助の災害のレベルをどう考えるか。それは、個人であつたり、街だつたり、そういう方々が、役所の提案よりももっとハードルを上げて頑張るか、やっぱりここまでしかできないからこういう形で逃げようとするとか、知恵を集めるしかない。被害想定は最新の研究方法、新しいデータでやりますので、常に数字は変わります。ただ、地盤、地震の研究によって少し浅いところから出現した。また、火災の被害は日常の耐火についてそれ程経験ができない。だけど研究の成果でこれまでの消防の延焼の理論から少し発展して、建物の塊としてとらえて燃えるという考え方に変わりました。この方法に変わったことで、さきほどの延焼遮断帯ではありませんが、大きな道路とか河川で区画が細かければ細かいほど火災が起こりにくい。中に出火確立減りますから、そういう傾向になりました。そのため、これまでの被害想定と違ってかなり火災が少なくなった区があります。しかし、そういうところで火災が起こらないのかと言ったら、これは東京都として考えられる被害であって、予想していないところに被害は起こらないとはいえません。

- ◆ そういう中で世田谷区の被害イメージを考えると、地震が起きて、火災が発生して、避難してというパターンもあれば、資料の図表で示したように非常に複雑な問題のが大きくなるかもしれません。火事があれば細かい被害が全て消えてしましますが、むしろ今度の被害想定もそうですが、火災の危険ゼロではないのですが、建物が非常に燃えにくくなっている。そうすると自分たちが営んでいる都市のライフライン系の施設や情報関係がなくなってしまう。人はなかなか死ぬ危険にはならないが、電気、ガス、水道、情報が来ないなど、ライフラインに問題が起きた時、人間は生きていますので、そういった時の方がかえって混乱する場合があるのです。つまり、世田谷の場合には、災害のイメージ、地震が起きたら何が言えるだろうかと、3つ考えました。
- ◆ 1つは複合型の災害拡大が起こるということです。また、2つ目は非常に区域が広いので、複合性と全体性でなかなか被害の全容が役所でつかみにくいであろう。変わった被害が出る可能性もあります。3つ目、区民が非常に多い。区民が多いというのは、被災者が多いと捉えがちだが、そうではなく区民の中にそれぞれのタレントとその数がいらっしやる。さらに日常活動の中でいろいろなところと付き合っている。常々こういった都市づくりでは、木造密集地の被害が問題となりますが、これまでも空襲とか、阪神淡路大震災とか、南関東の69年周期説で絶えず言っていました。そういうところで、典型的な被害が起こることはゼロではありませんが、実際の災害の被害の現れ方はそれを裏切ることが多いのです。つまり、被害想定というのは、確率的に建物の多いところほど被害が大きいとか、計算で統計処理をしているのですが、実際の災害はそうではなく、本来被害が起こらないと思っていたところに災害があった。そうなるのかなんかしんどいものがあります。災害というのは、予測を超えるという認識で、世田谷の被害イメージを語っていくことが必要であると思います。

- ◆ 最後に、災害対策/防災まちづくりの視点、結構難しいのですが、2点ほどお話しておきます。防災・減災・復興と言われています。これをご存知の通り、被害を出さない、拡大しない、被害が出ても最小限にとどめる。復興は被害が出ることも覚悟の上で新しい地域づくりに励む。自助・共助・公助とありますが、この組み合わせは大事だと、これはみなさん誰でも分かる。最近の計画では、減災目標という言葉で行政が取り組まざるを得なくなっている。数値を示してやるということなのですが、これは人間が災害を全て分かるものだと考えているということだけ申し上げておきます。数値目標も正しいけれど、統計的に処理しているものがそうなるとは限らない。だけどやらなければいけない。
- ◆ 言いたいことは2点。1つは、災害前の都市、地域の在り方で、その都市というのは、被害の状況、復興の難易度、応急の対応が決まります。今の世田谷区が頑張っているとしたら、頑張っている防災体制がとれるし、欠陥があるなと思えば、震災ではそこから被害が出るだろうと思っています。それまでの社会的関係、都市づくり、行政のやり方など普段からの付き合いによって、遠いところから助けてもらえるのか決まります。2つ目は、防災は目的ではないと私は思っています。自分たちの都市や住まい方がこういう住まい方をしたい。その中で災害にどう付き合うか。例えば先ほどの豪雨水害、こちらもあると考えた中で、防災をどうするのか。問題はそれをひとりではやれないということで、地域や区全体で取り組まなければいけないというのがややこしいところです。自然と調和した都市であつたら、空間のゆとりをきちんと取るとか、先ほどの緑もそうですね、必要な都市の施設や適正な都市の規模、ローテクをどこまで大事に残しているか、さらに地域社会の人間の付き合い。これは町会・自治会だけではなく、普段のテーマ型コミュニティ、または付き合い方、そういった友人関係も関係してくるかもしれません。防災のための都市づくりで、防災のためのまちづくりというのがありますし、防災にも役立つまちづくりということもありますし、やっていくことで防災に繋がる。例えば遠隔地の方々と普段も交流していたら、結果的に防災に繋がったなど、防災のために遠くの方と付き合っているわけではないのです。今は東日本と連携しなくてはいけない、そういう意味では防災でつなぐ街づくりも結構あるかと思います。

（松島部会長）

- ◆ 基本構想を考える上で、示唆的な非常に役立つ点が多くあったと思います。続きまして、小林委員から発表をお願いいたします。

（小林副部会長）

- ◆ 明治大学の小林でございます。専門は建築の設計、都市デザインです。今回世田谷区からいろいろな人口、産業のデータをいただき、私の研究所でGISというシステム

で地図に落としてみました。これは世田谷区の町丁目別の区域に分けて、それぞれの人口がどのように分布しているのかを年齢別に表したものです。マッピングでは、これにいろいろな緑や密集の建物、地図を重ねたりしていくと、いろいろなことが同時に見えてくるという一つの材料となっています。私たちの方で今回の議論ために準備しました。

- ◆ まず、未就学児の児童の分布を見ますと、東よりは真ん中、あるいは中部から。西の方、千歳烏山や祖師ヶ谷大蔵、砧、あるいは中心部の方に多くなっています。どちらかと言うと下北沢の方では薄くなっていますので、新しい家族が中心部から西にお住まいであるということが分かります。小学生を見ますと、割とまんべんなくいますけれど、東の方は薄い、中部、南部、北部。全体的に砧の辺りは色が薄いことがわかってきます。ティーンなりますと、ほぼまんべんなく世田谷地域という辺りに集中しており、梅が丘に急にあったり、千歳烏山にあったり。いわゆる住宅地の環状8号線より西側になると少なくなっています。20代になりますと、これは単身でアパートなど集合住宅に住んでいる方だと思いますが、圧倒的に下北沢、三軒茶屋の辺りに分布がはっきりと、東部に集中していることが分かります。また、駅周りにはいくつか島がありますが、基本的には東側に集中しています。30代、これは独身の方もいるでしょうし、新しい家族を持っている方もいるかと思いますが、20～30代は東部に集約して、一部未就学児のいるファミリーという数字もあるのだと思いますが、三軒茶屋から明大前のゾーンに集中していることが分かります。40代になると、もう少し西部の方に広がってきます。だいたい全体にまんべんなくおられます。ファミリーの方もこちらに増えてきています。高齢者層を見ますと、私の予測では西の方におられるかと思ったのですが、かなり中央部、東部に集中しています。砧は恐らく住宅の数の絶対数が少ないので人口が薄くなっています。これは、先ほどの松村課長の地図で言いますと、緑が圧倒的に多いエリアはこの辺りですので、緑が多くて住宅数が少ないことが言えます。
- ◆ 続いて、京王線、小田急線、小田急特急、それぞれのバスの路線をマッピングしてみました。特徴的なところは、路線が長いということです。例えば成城学園から渋谷まで行っているものがあります。ひとつひとつが長いものと、駅周りだけを回っているものがいくつかあります。見てお分かりになるように、経堂のこのあたりはかなり空白ゾーンです。こういう所は、本当はコミュニティバスが必要なのかもしれません。これは、先ほどの松村課長の交通不便地図を重ねたものです。これはいわゆる公共交通の鉄道から500メートル、バス停から200メートルというところを重ねますと、こういった歯抜けの所が非常に駅もバス停も遠いということが分かります。エイトライナーの話がありますが。全体に鉄道が放射状であるので、縦交通が圧倒的に弱いということが出ています。

- ◆ 世田谷線くらいまでは何本かいくのですが、それより西に行ってしまうと、烏山、成城学園、二子玉川の文化とほとんど人が顔を合わせないくらい行き違っているということになります。
- ◆ これは、世田谷区ふれあいの家という、例えば区に寄贈された空き家を改造してコミュニティセンターのように使っているところをマッピングしてみたものです。かなり、充実しているところと全く無いところがあります。できれば、こういった所を寄付していただいて、増やしていくことが必要であるかと思います。
- ◆ 私どもが一番大事だと考えているのは、高齢者の人口分布と交通、あるいはふれあいの家です。それを重ねていくと、経堂の南辺りの交通不便地にかなり高齢者がおられます。ですからこの方々はおそらくかなり不便を感じておられると思います。自転車の道もあまり整備されていないので、区の政策とすれば、こういった所を重点的に考えるべきだと思います。これを支所がある5つの地域で区分をしてみました。そうしますと、さきほどのここは世田谷地域になります。それから今まで20～30代の多い下北沢地域が特徴です。烏山地域はそれなりの特徴になります。砧は全体に人口も少ないし、交通もあまり良くなさそうですが。そういう意味で、それぞれの地域は、均一ではないということです。それぞれ課題を抱えていますし、全体の中でも優先順位が見えてくるということです。こういったことをもっと丁寧にやっていくと、区民の方たちに理解された優先順位で、どこに予算をつけていくかという議論が出来るのではないかと思います。これは交通不便地域と65歳。先ほど似たようなものがありましたが、やはりここも烏山も不便なところですね。ですから、世田谷地域の西側と烏山のあたりは少し交通を考えたコミュニティ政策が必要かと思われます。
- ◆ ふれあいの家と65歳以上の分布を見ますと、太子堂、経堂あたりは空白の場所が見られます。
- ◆ レンタサイクル「がやリン」といって、いくつか星のところにレンタルサイクルの場所があり、これで自宅に帰って別の所に戻してもよいというネットワークで想定されているものです。この他の道は、自転車道ネットワーク整備方針ということで、歩道の一部とか、安心して自転車で行けるようなことを区が考えている場所です。これはどう見ても、サイクルポストとサイクルポストをつなぐ道がありません。ポイント、ポイントではそれなりの努力をされているようですが、基本的には南北の交通が足りません。あまり長いバスよりも、その地域で少し便利な駅に行けるようなコミュニティバスが一部では必要ではないかと思います。
- ◆ あとは、お配りの資料でもありますが、家族で経営されている商店のようなもの、ベンチャー的な5人未満の事業所を見ますと、ほとんど駅回りに集中していて、世田谷線のところに多くあります。これは恐らく小売りのご家族経営の商店ぐらいの規模かと思います。10人になると全体的に少なくなります。あとは、卸売・小売業、商業系は、基本的には駅前から面的になっています。宿泊業、飲食サービス業をみますと、

下北沢に集中しています。これは先ほど松村課長が紹介された広域生活拠点としての役割は商業的には果たしていることになります。地域生活拠点としては、それなりの密度を持っていると言えます。ただ、これはよいのですが、結局このあたりの人はどうすればよいのか。経済的な部分でも少し空白の部分と集中している部分がまだらに見られるというようなことが分かるかと思います。

- ◆ これはまだ研究途中で、さらにいろいろなものを重ねてみることで、いろいろなことが見えてくると思います。以上です。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。
- ◆ 事務局からのご説明と、両委員からのプレゼンテーションを前提といたしまして、防災と街づくりについて議論していきたいと思います。ただ、これは防災と街づくりというテーマには留まらない前回議論した世田谷らしい雇用の場のあり方にも非常によく関わった問題だと思いますし、防災の問題とは、コミュニティの在り方に関わる側面もあります。各委員から幅広いご意見をいただきたいと思います。
- ◆ 議論していく際にぜひ取り入れたい視点があります。吉川委員のお話の中にもありましたが、行政サービスとしてどうあるべきかという議論だけではなく、区民としてどういう心構えでいるべきか、区民の役割も大変重要であろうかと思っています。区民としてどう考えていくか、どう行動していくべきかという点も今日の議論の中で入れておきたいと思います。区民、事業者、行政が関連づけながら、それぞれの努力でよい街づくり、防災を進めていきたいと思います。これから議論に入っていきたいと思いますが、その前に、本来ならこういったプレゼンテーションに対して意見を言わなくてはならない桑島委員が本日欠席されているのですが、どうしてもご意見を申し上げたいということで事務局宛にメモが提出されていますので、まずご紹介していただいた上で、議論に入っていきたいと思います。

（事務局・吉田政策経営部副参事）

- ◆ それでは桑島委員から本日のテーマについてコメントを頂いておりますので、ご紹介させていただきます。
- ◆ 本日は所用のため部会を欠席いたしますことをお詫び申し上げます。本日のテーマである「街づくりと防災」に関連して、商店街の果たす役割は大きいものがあると考えております。前回の部会の最後に TOKYO 商店街 2012 「防災から見てくる地域コミュニティの可能性」という冊子を配布させていただきました。地域コミュニティの担い手として期待されている商店街の災害時の役割について記載しています。冊子に掲載した商店街に期待することを調査したアンケート結果では、「地域の防犯、治安の向上」が 42.7%、「いざという時の助け合い」38.1%、「災害時の対応」36.6%となって

います。商店街は地域の方々から、ただ買い物をする場としてではなく、安全・安心など、共助を担うコミュニティの核として期待されています。そうした地域の住民の思いに応え、いざという時に商店街が機能し、来街者の避難誘導や防災情報の提供、消火活動、救護活動への協力や協定に基づく日用品の提供など、防災の役割を果たせるよう、災害時の商店街の役割を明確化するなど、事前の仕組みづくりも必要であると考えます。日頃から商店街と地域住民や商店街の店舗の連携を強化し、住民と商店街が支えあい、防災能力を高めるためには、地域が一体となる意識啓発や地域コミュニティを形成する取組み、地域の人材育成などが重要であり、商店街は地域コミュニティの核として、その中心的な役割を果たしてまいりたいと考えています。以上、今回のテーマに関連した考えの一部を述べさせていただきました。よろしくお願い申し上げます。事務局からは以上です。

（松島部会長）

- ◆ 本当なら桑島委員にこの場において、議論をできればよいのですが。
- ◆ 提供された豊かな情報をもとに、街づくりと防災について議論していただきます。

（小林副部会長）

- ◆ 本当は高齢者層が全体の20数%となっていました、その中で独居老人がどのくらいいるのか、個人情報になるかもしれませんが、どこにいるのか、どこに集中して住んでおられるのかを把握しないといけないと思います。以前、空き家のデータをいただきましたが、これは全地域を調査したわけではなく、サンプルテストでしかないということで、空き家がどの程度あるのかは、アメリカですとバス会社や電気会社のデータを出させれば分かるのですが、日本の場合は1軒1軒調べなければならないという大変な作業になります。まだ印象ですが、先ほどの吉川先生の防災に話を組み立てていくと同時に、またはそれよりも前に、今の世田谷がどのような状況かをもっと正確にデータを集めて、議会を含めてちゃんと議論をしていただきたいと考えています。
- ◆ 基本構想審議会は20年後をイメージしているとすれば、20年後の人口予測と、その時に今の20代の人々が40歳になって、おそらく西の方に移り住んでいく。私のケースですと、子どもが増えるたびにだんだん西に移っていくという経験がありますが。その若い人たちがいかに世田谷に住んで貰うか。できれば、営業なり、新しい経済を起こしていただければよいのですが。若い人たちを20年後、どうやってさらに納税者として、有力な層として育てるかということを議論していくことが大切ではないかと思います。防災とは別になります。

（松島部会長）

- ◆ 問題をさらに深めたコメントをいただきました。永井ふみ委員には、意見を紙に書い

ていただくだけでなく、意見をいただきたいと思います。

（永井ふみ委員）

- ◆ 小林先生のお話は、データが積み重なっていくことで見えてくるものがあるということで、説得力があると思いました。その上で桑島委員のお話があり、烏山では商店街がコミュニティや共助の核になると思いますが、私が住んでいる桜丘では、コミュニティや共助の核になるのは、農地もあるのではないかと感じています。今日も息子はじゃがいも堀りに参加しており、桜丘の風物詩となっています。小学校のPTAが催したり、児童館がやったり、地域の方が参加されたり、保育園も行っていたりとみんな農地に集って、地域で連携しています。じゃがいも堀りをした農家の方と子ども達は、普段から野菜を買いに行っていることもあり、名前を呼び合う間柄になっています。第2部会の最初の会でお話された方もいましたが、農地は災害時のオープンスペースとしての役割や、食を提供するなど、商店街と似たような役割を果たす可能性があると思います。コミュニティ、交流、物資の提供などの防災力の面から捉えると、小林先生からご指摘いただいたコミュニティの核になるのではないかと思います。この場にいるメンバーは地区を網羅している訳ではないと思いますので、小林先生のおっしゃるデータの積み重ねをもう少し進めていく中で、区民の方々、今度区民の方々を対象としたワールドカフェがあると思うのですが、そういう中から地域の方の声をいただき、地域の核を共有していければよいと感じました。

（松島部会長）

- ◆ 商店街以外にも農地がコミュニティの核になるというご意見でした。想定について一言申し上げておきたいのですが、町内会の役割が防災を考えた時には非常に大きいと思います。町内会を活性化させることが重要だと思います。と言いますのは、もう一つ、町内会がワークしなくなるきっかけがあります。マンションができると、新しく入ってくるマンション住民と、もともと地元で暮らしている住民との混合になります。ほっとくと、ギャップが生じ、町内会がワークしなくなるのです。そういった問題は世田谷区だけではなく、東京都の各地域であると思いますが、その問題をどう解決し、町内会を活性化していくかが、防災対策につながるコミュニティづくりにもなりますし、まちづくりの大きな課題であると言えます。商店街がコミュニティの核になることは間違いないと思いますが、また農地もコミュニティになるでしょう。これらに加えて、自治体・町内会も視野に入れて考えていきたいと思っています。

（上野委員）

- ◆ 町内会についてですが、確かに最近町内会に入っていない方が多くいます。私の地区はマンションが増えて、散歩していても誰だか分からない人が多い状況です。部会の

最初の頃に、小学校を核にしたらよいのではないかという意見がありましたが、47%が私立に通学しており、PTAのお母さんも地域の子どもを知らないのではないかと感じます。やはり、防災は組織よりも、各自が区民としての自覚を持ち、行政の方にやっていただくことも大切ですが、自分の身は自分で守るという考え方を進めていかないとうまくいかないのではないかと思います。

（松島部会長）

- ◆ 今の上野委員のお話は、コミュニティの核として、地域に住んでいる方が子どもを通わせる学校を通じて、お父様方、お母様方がひとつのコミュニティ意識を持ち得るはずで、地域の核としての学校のネットワークも大事だというご指摘だと思います。

（宮本委員）

- ◆ 最近町内会の理事が回ってきそうで、思い当たることがあります。確かに町内会に入らない方が多く、ずっと高齢者の方の中で理事の順番を回している状態です。ただ、ラジオ体操には来る者拒まずということで、町内会に入っていない方のお子さんも来ており、結局皆さんにお菓子を配っています。町内会のうまみに預かっている人がたくさんいるという現状です。これからどうするかを考えた方がよいのではないかと思います。
- ◆ 私は病院でアルバイトをしていますが、来られる患者さんのほとんどがご高齢の方です。ご高齢の方は、電車・バスを使わず、徒歩で通える病院を選ばれ、それが日常の外出目的になっています。交通の便の悪い地域、高齢者の多い地域とは別に、かかりつけ医師が高齢者にとってどのような居住の範囲にあるかも大切で、病院の位置で彼らの普段の交通手段について把握する必要があるのではないかと思います。防災について考えた時に、病院と高齢者をセットで考えてはどうかと思います。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。いろいろなネットワークの核が議論の対象になっていて、それが地域で適切に配置されているということが、防災のためにも重要だというご意見だったと思います。

（小林副部会長）

- ◆ 今回失敗したと思ったのは、GISの分析には、小学校・中学校が含まれていなかったのと、民間も含めて医療施設についても地域ごとで構わないのでもう少し正確に把握していく必要があると思います。

（松島部会長）

- ◆ 防災拠点と都市の拠点は重なると思います。都市機能の中心は、いくつかあって、お

そらく、資料1の①によると、都市機能の中心が3つくらいあります。防災を考えると、それ以外のいろんな機能の拠点として、だぶって考えられる必要があるということだと思います。また、都市の機能としてどんな機能が必要なのかということが、おそらく、買い物の機能が満たされればよいということだけではなく、もう少し文化的な機能も必要ではないかという気がします。そういった点について、また永井多恵子委員からご意見ありますでしょうか。次回も議論しますが、今回ちょっと頭だしをしておいていただけるとありがたいです。

（永井多恵子委員）

- ◆ 今回は防災がメインですが、防災ということを頭に置きながら、結局は詳細な都市計画の問題であると思います。烏山の場合は商店街に店主が生活しながら事業をやってらっしゃるからで、私の見るところでは、他の地域ではだんだん不動産としての持ち主と事業者が分離していく傾向にあります。そうすると、ほとんど自助・共助が機能しない、単なるサラリーマンとしての商店主であり、1年ももたないで事業から撤退して、新しい店舗になるような街が多くなっているように感じます。道路幅が広がることも大切ですが、道が広がると土地の価格が上がり、今まで事業をやっていた人が単なる不動産屋になるといった傾向が想定されます。これをどうするのが大切であると思います。
- ◆ 世田谷みどり33計画ですが、緑が多いから世田谷に住みたいが、新たに住みたい人は一戸住宅を建てることは無理で、長屋の規制も区が始めようとしているようですし、結局は住宅環境に変わりつつあり、緑は減少することも考えられます。20年後を想定しますと、世田谷区は23区の中でも緑の多い地域だと思うのですが、これが殆どどういった有様になるのか危惧されるところです。建ぺい率をみると、 -30 m^2 ではなくても 10 m^2 、世田谷の新建築条例みたいなところで、少しみどりを守ることが防災につながるというような気がします。
- ◆ 専用住宅は無理なので、集合住宅のあり方を考えていくことが大切です。そこに住む人たちが管理人や大家任せであることは、ごみの出し方ですぐ分かります。その地域でまとまってごみを出すようになってきているところは、コミュニティがしっかりしています。最近、区役所が1戸1戸でのごみ出しを認めたので、その結果1軒1軒の前にごみが出されているわけです。これはコミュニティの破壊となっていると思います。また、集合住宅の方たちが当番をなさらないし、町会にもお入りにならない。町会の機能は活性化されておらず、まわってくるといやだなと感じるのは仕方ないと思いますが、そこをどうにかしなくてはならないというように、世田谷も相当いろいろな問題を抱えている地域であるということは間違いないと思います。

（松島部会長）

- ◆ 今の永井多恵子委員のお話の中に、3つのポイントがあったと思います。1つは、商店街がコミュニティを支える機能を持つと言っても、そこで営業している方が区民意識を持たないような、そこにお住まいになっていない方がナショナルチェーンのような形でやっている商店街では、コミュニティの核にはならないのではないかという問題。2点目のみどりの問題は、配付された資料3の③の1、世田谷区のみどり率の分布図を見て分かったのですが、確かに西の方が濃くなっていますが、ここには人が住んでいません。住んでいないところには緑が多く、これが全体の33%と言っても問題は解決しないということを永井多恵子委員はおっしゃっているのだと思います。人が住むところが緑の割合を高めていくことが大切ではないかと思います。地域ごとにみどり率をどう上げていくかという視点が大事だということではないかと思います。

（永井多恵子委員）

- ◆ 世田谷区もポケットパークなどいろいろ公園を造っているようですが、最近、墓地の広告が多く出ています。東京都でも青山とか、西の方でも武蔵野市でしょうか、樹木墓地を設置されるようになって、各お寺で墓地を作るときに石だけではなく、樹木墓地のようなことも奨励していただくとか、樹木墓地の人气が大変あるようなので、こういうことによって、緑を確保するなど、きめ細かい政策を誘導してもらえるとよいだろうと感じています。

（松島部会長）

- ◆ お寺の緑を濃くする。あるいは、お寺の木を守るなどは可能なことですし、都市の中でお墓を作ることはそう簡単ではないと思いますが、きめ細かく緑を多くするための方法を考えるということは重要なお指摘だと思います。要するに一つの方法で緑の率を多くするのは無理なので、細かな施策の積み重ねで、いろいろな工夫を通じて緑を増やしていくことが必要であろうということだと思います。

（小林副部会長）

- ◆ 成城学園の屋敷林が相続で分割され住宅になり、今後は代替わりでそういうことが起きていくと予測されます。足立区だと思いますが、区で条例を考えて、屋敷林をどうやって保全するかということを真剣に議論しています。それは相続税でいじるのか、建ぺい率でみるのか、ある団体に寄贈して、それを皆で防災やオープンスペースとして活かしていくのか、世田谷区なりの仕組みを今作らないと、この減少率をみていくと、どんどん減少していくのではないのでしょうか。
- ◆ 残念ながら下北沢は、真っ白で緑がないのですが、実は佐藤栄作さんの家があったりします。でもここ10年位を見ていくと、どんどん小さな家になったり、マンションになったりしているので、その開発圧力と緑の保全、それから先ほどの吉川先生の話に

あった災害が一番弱者を襲うということを考えていかないとならないと思います。

（松島部会長）

- ◆ 先ほどの永井多恵子委員のお話の3つ目のポイントですが、ごみの出し方について触れられていました。これはある意味、コミュニティのあり方にとっても関わりがあると思います。ごみ出しを1軒、1軒で行うのは、一見良いように思われますが、それは地域の中でごみ処理の問題を避けて通っているような気がします。この問題は難しいのですが、ごみの出し方を考えることによって、コミュニティをコミュニティたらしめるようなきっかけになるような気がしました。

（永井ふみ委員）

- ◆ 先日、第3部会でもごみの問題が議論されていまして、少し付け加えさせていただきます。在日外国人のゴミ出しも近隣とのトラブルを抱えているということです。また、高齢者もごみの分別が難しいということで、それでいざこざが起こると問題になっていて、ゴミ出しをしっかりとしていくことで、コミュニティをより強くしていくことが大切だということでした。

（松島部会長）

- ◆ 第2部会で議論していることは第2部会だけで完結することは殆どなくて、第3部会でのコミュニティの在り方、文化の在り方の問題と非常に関わっているということだろーうと思います。こういうところを本委員会では更に議論していきたいと思います。新しい問題の熟度はいかがでしょうか。

（吉川委員）

- ◆ 災害時のことを考えると、どこへ、自分が、誰と助け合うかという時に、知っている人のところに行くということです。子育てをしている仲間だったら、その仲間同士で連絡し合うでしょう。商店街も同じで、普段商店街ではなくて、ネットショッピングをしている人などは、やはり商店街には行きません。商店街も物販がしんどい状況になっているので、桑島委員なども生き残るためというのも変ですが、元気な商店街という言い方で、地域の方々の魅力になっています。先ほどのお医者さんの問題もそうで、例えば、区で避難所に医者を派遣し、どういう対応をしますなど、救助法ではここまでみています、としています。本当はかかりつけのお医者さんが休んでいても、起きてきていただいて診てくれるような人間関係がいろいろなところで作れていないと、世田谷として難しいのではないかと思います。例えば児童館、小学校や大きな大公園が避難場所に指定されているが、災害時にわざわざ普段行ったことのない大公園までは行かないでしょう。小学校も自分の子どもの行っている小学校ならば行こうと

するでしょうが。コミュニティは今まで町内会にお願いしてきた歴史的経緯があるし、地域を活気づける意味で、町内会のパワーアップも必要なのだけれども、それ以外のところも上手く拾えるような、地区レベルでなくもう少し地域の協議会的なことが考えられるのではないかと思います。そういう意味では、地域の農家のおじさんと親しんでいるというのは、本当の交際の話です。そういったあたりにももう少し目を広げると良いかなと思います。

- ◆ また、緑の問題を防災に関係付けたりすることもあります。やはり気持ちがいい、快適である、この街に住んでいて楽しい、自分もルールを守れるとか、そういうことが防災の基礎になるので、人との付き合い方、街の空間のあり方みたいところに帰結すると考えました。

（松島部会長）

- ◆ 吉川先生の防災のお話が出ましたので、皆さんにとひとつ問題を提起したいのですが。おそらく、3.11の時に問題になったのは、都心から人が歩いて帰るあの光景だと思いますが、そういう時に世田谷区はその通り道になるわけです。そのために何か準備しておく必要はないだろうかということを問題提起させていただきます。

（上野委員）

- ◆ 世田谷の環状8号線沿いに温泉や井戸が多くあります。震災時に井戸水を提供する家が世田谷区には結構あります。ちょうど環状8号線を境に、向こう側に帰る人と内側にいる人で分かれます。区役所と議員さんたちは、個人でも防災において意識していることはもちろん大切ですが、たとえば町会に入っていない人など、地域に関わっていない人をどのように捉えているのか。独居老人の安否確認については、民生委員しか把握できないルールとなっていますし、そのへんのところをどのように上手く機能させていくのが重要だと思います。
- ◆ 区役所の防災庁舎を見せていただいたことがあります。ここで多くの世田谷区民を助けられるのかと心配になるくらいです。3.11の時に、防災無線もよく聞こえなかったですし、電車は止まってもバスは動いているなど交通がめちゃくちゃでしたし、呆然とした覚えがあります。そういったところを区議会委員はどのように把握されているか、どのような防災マニュアルを持っているのか、区役所がどのように動くのかなど、区民としてある程度知っていきたいと思うのですが。

（松島部会長）

- ◆ では、その点に関しましては、区議会委員の人々から後ほど、まとめて伺いたいと思います。今の上野委員の意見はノートしていただきたいと思います。
- ◆ 今のお話で非常に大事だなと思ったのは、いざという時のネットワークはひとつでは

ないということです。町内会もあれば、商店街もあれば、民生委員もあります。それぞれが地域の中にネットワークを持っていて、そういったネットワークを多重的に上手く活用することによって緊急時の対応をすべきだという議論が重要だと思います。今、そういったネットワークがバラバラに機能していて、行政もバラバラに持っている。それだと、いざというときに、それを連動させていろいろな問題に対応することは難しい。違うネットワークが有機的に連携して作用できるように、普段からやっておくべきではないかというご意見だと思います。

（吉川委員）

- ◆ 防災無線がよく各地で話題になりますが、それも含めて区役所の施設がプアだということが指摘されました。実は災害時にしか使わない仕組みは、100%信用できるのかというのは必ずあります。防災無線にかなりお金をかけ、整備しても、正確な情報をきちんと伝えることは難しいだろうと思われまます。防災情報はすぐ忘れますし、同音異義語もあります。そうだとしたら、それ以外にどういったネットワークがあるか。例えば、プロの持っている情報ネットワーク、個人が築いた情報ネットワーク、そういうものも含めて、災害時の情報を考えなければいけないので、そのところが問題です。物流の問題も、役所が輸送計画を作って対応するとなっていますが、実際にはプロの輸送業者やコンビニさんの方がはるかに対応できます。そういった多様な方法をとっていただかないと、防災だけの設備はできるだけ注意した方がよいだろうと思っています。

（松島部会長）

- ◆ 防災無線もネットワークの一つですね。いざという時に情報が流れる一つの通路ですから。ネットワークが非常に多重的になっている。これを上手く連携して動かしていくことが大切です。先ほどの吉川先生のお話を聞いて、防災が起きてからどうするではなく、結果として防災につながるように、いかにコミュニティをコミュニティたらしめるかという課題だと理解しました。

（吉川委員）

- ◆ 防災無線が、各地で災害時に流れなかったという話が必ずあるので、聞く側も注意していただきたいです。

（松島部会長）

- ◆ あと、5分くらい、議論したい部分を済ませた後に、田中先生、上島先生、村田先生、高橋先生、それぞれから5分くらいずつ発言していただきたいと思います。
- ◆ 小林委員の作ってくれたこの何枚もの絵が非常に重要だと思います。ここからいろん

なことが考えられます。一つは、人口がどこで、こういった年齢層がかたまっているかということで、小林先生は、比較的高齢者の人口分布と都市機能の点を中心に説明されました。その点から申し上げますと、独居老人、高齢者が多く住んでいるところに、あまり自分で自動車を運転して動けるような人は住んでいच्छらないということ前提に必要な都市の機能がきちんと分布されているかという問いかけがありました。これは非常に大切で、もし全てにまんべんなく配置できないのであれば、コミュニティバスのような交通サービスを供給しないと、買い物難民になってしまいます。買い物だけでなく、生活のいろいろな便利さが得られないという現象が起きてしまいます。必要な機能を分散できないならば、そこに行けるように交通ネットワークを整備する。その前提として、南北交通の道路政策という議論になってくると思います。

- ◆ もう一つは、未就学児の分布図を見ると、これはご両親がここに住んでいることを指しているわけです。夫婦で働かれるときに、それにふさわしい児童館や子どもを預けられる施設とか、お母様が働きやすい環境が整備されているかという点で、これに必要なファンクションがどう重なっているかというのを、後で小林先生に是非作っていただきたいです。そういった視点から考えていくことが必要ではないかと思います。

（永井ふみ委員）

- ◆ これはまさに私の世代で、夫婦共働きで、2人の子どもが未就学児なのですが、先日、子どもの保育園で、保育士さん向けの防災についての講演会があり、そこに参加してきました。そこでは、宮城県の保育園での震災前後の状況をレビューしたビデオを中心に、講演がありました。そこで重要だと言われていたのが、マニュアルはあるけれども、必ずしもマニュアル通りに行動しなければいけないということではない。地域で避難経路が決まっていっても、地域の人こそが一番の安全を分かっているというお話でした。
- ◆ もう一つ心を打たれたのは、日ごろからしっかり地域ぐるみで避難訓練を行っていたということです。そのために、保育園児を先生達だけでなく、小学生や中学生が手を引いて避難所の高台に避難させ、地域の企業の人たちも連携しての取組みが続けられていたので、その方たちも子どもたちを抱えて高台に避難させてくださったということです。災害は誰の身にも降りかかることで、みんなで助け合わないといけないことですので、小さな子ども、障害のある方、お年寄りなどの居場所をしっかりと把握して、助け合っていくことが必要であると思いました。世田谷は津波の被害は大きくないと思いますが、地震に関しては、建物が燃えてしまう可能性があるので、地域ぐるみの防災イベントをやっていけると、日常生活も楽しくなるのではないかと思います。先ほど、ネットワークの多重が大事という話がありましたが、一方でみんなを串刺しにするイベントも必要かと思います。町内会に限らず、地域のイベントの場があると有難いですし、日々安心だと思います。

（永井多恵子委員）

- ◆ コミュニティの問題であると考えますと、コミュニティというのは必要があつて、共同して集まるということです。3. 11以降、今までやってきたことを振り返る必要があつて、別のことをやっていかないとならないと思います。今世紀末、日本は人口が6千万くらいに半減するとか、いろいろなことを考えなければいけないのですが。一つは自然エネルギーの問題で、今は資力のある方は、自分の家の屋根に太陽光発電システムを設置したりしています。コミュニティの中で、何か共同してエネルギーや水を使えるような仕組みを作れないだろうかと思っています。例えば、水道管の中に埋め込めるような発電施設などいろいろあるようなので、皆が参加しないとしないような仕組みづくりを地域ぐるみでしていかないと、コミュニティは作れないような気がします。

（松島部会長）

- ◆ 大変重要なお指摘がありましたが、エネルギーの問題については、後日まとめて議論したいと思います。今の永井多恵子委員のご意見は、エネルギー問題をコミュニティとは引き離せない、あるいはそれを加味した手だてが必要だということだと思います。
- ◆ それでは時間も限られていますので、各議員からコメントしていただきたいと思います。

（高橋委員）

- ◆ 様々な議論をいただきまして、どこから話したらよいか悩ましいですが、先ほど吉川委員が、災害は弱者を襲う、弱いところに強く被害が現れると言われましたが、まさにその通りだと思います。3.11以降、民生委員さんもそうですし、あんしんすこやかセンターという地域包括センターの方々とか、町会、自治会の方々が、うちの近所である赤堤のようなところでは、独居老人、高齢者をすべて回って確認したということです。そういった方々をどう見守っているのかということは非常に大事だと思います。地元で消防団をしているのですが、ある先輩は、独居老人がどこの部屋でどう寝ているのかを把握していなければ救うことができない、と言っていたことがあります。これが究極的人を救うということだ、ということを消防団の時に教え込まれました。しかし、どうやって、あのおばあちゃんがあの部屋のどこに寝ているのかということ調べるのかと、近所から始めましたが、何人しか分かりませんでした。そういった人と人とのつながりをどう作っていくのかということが大事なのです。
- ◆ 何を核にしていくのか。世田谷区の町会・自治会の加入率が60%弱ですので、約半分は加入していないということです。何のコミュニティも無いのかということ、学校でのコミュニティなど様々あるわけです。それをどう強化していくのかのが、地域行政制度の区の議論にもなっているのかと思います。これからの20年を考えた時に、問題な

のは、都市の更新時期だと思います。今まで都市がはぐくんできた都市型が、どう更新していかなければいけないのかという時期に入っている。人間もどう更新されていくのかということだと思いますし、先ほど災害本部の話が出ましたが、様々な区役所を見ても建物自体も更新しなければいけない、下水道が最初に完備したところも40～50年経っているわけですから、これも更新時期に入っている。住宅が密集している世田谷区にどう緑を増やしていくかは、どう住宅地を更新していくのかということになると思います。防災を意識した更新を始めなければ、人間のコミュニティづくりにも関わってくるのではないかと思います。

（村田委員）

- ◆ 私は先ほどの吉川委員のお話を伺って、日常が大切だという指摘は、まさしくそうだと思います。防災の問題ですが、コミュニティも大切ですし、道路も耐震化も大事と総論的にはあると思います。区民は自分たちが住んでいるところで何が自分たちの安全なのか、ひとつひとつ課題を明らかにしながら、行政と地域で作業を進めていくことが大事だと考えます。地域行政の委員会で議論していますが、強く感じています。道路が大切だと言われていますが、玉川の深沢地域の道路は割と整備されています。このため、道路を作ることが地域の防災機能を高めることや、耐震性の必要性を感じていません。一方で、世田谷区内をみると、そうでない地域があります。木密（木造住宅密集）地域では、それは課題になるであろうと思います。深沢で震度6強だと言われた時に、自分たちの安全のために何が必要なのかということを経験ごとに自ら課題を明らかにしていくことが必要であると思います。例えば、避難者が多くなりすぎないことは、地域の安全にとって非常に大きなテーマかと思います。古い家の耐震化を考えることも大切です。
- ◆ また、いざという時のコミュニティ、地域力を作っていくことも大切です。ハードな面もソフトな面も含めて、総論的に言われていることを地域で具体化する仕組みを作る。そのために、世田谷区で今行われている三層構造、行政からサービスを提供するだけでなく、三層構造のそれぞれの中で、地域での課題を明らかにして解決していく必要があると感じています。最後になりますが、4年ごとに選挙がありますが、世田谷区の住民はだいたい4年で20～25%が入れ替わっています。4年経つと、知らない人が25%住んでいるということになりますので、一度コミュニティを整備すればよいということではなく、4年ごとに入れ替わる人を地域で一緒のコミュニティの和に加えていくような仕組みづくりが必要だと思います。こうした意味でも、地域行政の役割を考えていただきたいと思います。

（上島委員）

- ◆ 今日の皆さんのお話を聞いて、示唆に富んだ意見が多かったと思います。そういう中

で、ステレオタイプの話になって申し訳ないのですが、公共としてやるべきことを明示し、やれていないことはしっかりやっていかなければいけないということです。村田委員からもありましたが、木密地域の対策、道路の整備率が都市計画道路でみると23区で21番目、道路率では19番目という実際の数字が出ており、また、6m未満が6割の道路を占めている、主要燃焼遮断帯は3割が未整備、一般延焼遮断帯が5割未整備と、この数字はしっかり取り組むべきこととしてやっていくことが重要だと思っています。

- ◆ ただ、これはハードな部分であって、もっと重要なのは区民の意識をどのように変えていくか、もしくは特に吉川委員から出た話として、街づくりであるとか、ライフスタイルと言うのでしょうか、防災というものを日常の中で活かしていくような生活を世田谷区でどのような形としてできるかというのが、今回の基本構想の中で面白い試みではないかと思いました。社会の仕組み全体に関わるような防災の観点を活かしていただきたいと思います。

（田中委員）

- ◆ 本日は貴重なお話をありがとうございました。私が心に響いたのは、事前に準備していないとできないということと、頑張っているところはそれなりに減災などの効果がある、やっていないところはだめだということです。災害前の都市の在り方、日常の都市の在り方で、その地域の被害の大きさが決まるというお話はそのとおりだと感じました。それで行政の役割と区民の役割が何だという話によくなるのですが、要するに行政の役割が決まれば、それ以外は区民の役割になるわけなので、公共として何をするか、どこにどういってお金をかけるかということが重要だと思っています。
- ◆ 地震は必ず来るということで、それに対して備えなければならないのですが、都市構造という点で、何で差がつくのか。行政としてハード面の整備をして、何で差が出るのか、どこにお金をかけるべきなのかということを知りたいと思いました。例えば、屋敷林が無くなり、延焼を防ぐ緑が減ってしまうということなら、屋敷林を買い取るべきなのか。もしくは、道路整備は必要だなと感じましたが、それにお金をかけるべきなのか。災害対策本部の役割として、災害時の非常用電源の燃料すら無いという状況を指摘しましたが、このたび、臨時的にお金をかけて、第三庁舎に災害対策本部を設置しました。ただ、ここの整備も臨時だと思うので、最近では震度7を4まで減少させる免震構造もあるので、そういうものを取り入れながら、災害対策本部を本格的に考えるためにお金をかけるべきなのか。そういうアイデアを吉川先生に伺いたいと思います。
- ◆ ごみとコミュニティの問題、町内会が高齢化してなかなか新しい住民が入らないなどの問題は難しいですが、しかし、過去には戻れないので、新しい仕組みを考える必要があると思います。例えば、町内会以外にもコミュニティはあって、学校やマンショ

ンでも管理組合として防災訓練をやっており、区ではどんな小さな訓練でも出向く仕組みがあります。街角単位で防災イベントをやっているところもありますので、そういう小さなことを広げていくという視点が必要なのかなと思いました。

（吉川委員）

- ◆ 災害時の独居老人対策については、これは民生委員だけが全てを背負わされているというスタイルに問題があると思います。災害時に民生委員の下に人が集まって、手分けして行うなどの仕組みや体制が必要だと思います。具体的には高齢者が地域にどう溶け込むかということが重要なのですが。
- ◆ 阪神淡路大震災では、道路で火災が止まりましたということで、都市構造が大事だと指摘されました。ただ、区画整理したことによって、新しい建物が増えたので、建物の倒壊や火災が減ったということで、要するに都市が更新し良い環境を作ったことが、結果として区画整理の地区に被害が少なかったのではないかと思います。ハードの整備をあのレベルまで目標にするのは良いのですが、そうでないところも倒れない家はありますし、地盤がいいところもありますので、どこに地震が起きたかということにも関係しますので、インフラ全般についてお金をかけるべきかどうかという判断は難しいと思います。みなさんと議論して、基盤が大事なのか、海があちこちあるようであれば、基盤にお金をかける公助のやり方もあります。防災を公共がどこまで担うかというのはその都市、その都市で議論しなければいけないので、時間もかかることだと思います。

（松島部会長）

- ◆ 大変大事な問題でありますので、我々としても続いて議論していきたいと思います。今日の議論は最後に総括をする時にも大事なテーマだと思いますので、今日出た宿題は、各議員も考えてご意見をいただきたいと思います。
- ◆ 時間がありませんので、私からひと言だけ。小林委員の人口、年齢層の分布と諸機能がどこに配置されているのかというのは大変重要な資料だと思います。この資料から読み取るべきことは非常に大きいものがあると思います。今日これを議論し尽くしたとは思っていませんので、またこの図は出していただきたい、議論を深めていきたいです。次回は環境・エネルギー、芸術文化という問題について議論していきたいです。永井多恵子委員から重要な指摘があったと思います。特にエネルギーに関して、いざという時のエネルギーを考える上でも、普段から分散して、井戸水と似ていて、パラレルに議論できることかもしれませんが、そういう分布を如何に作っていくか、こういったことも環境・エネルギーの中で議論していきたいです。
- ◆ また、芸術文化に関しましては、松村都市計画課長から出していただきました広域生活拠点についてという一枚紙。これもできれば小林副部会長の資料のように映せるよ

うにしておいていただけると議論する時に大変便利です。広域的生活拠点都市計画で定めるとすれば、そこにどういう機能を盛り込んでいくか。これを特に芸術文化という観点を入れて、世田谷区ではどういう分布になっているか、それが十分なのか。図書館はすごく大事だと思います。図書館の最大の問題は運営管理をいかにしていくのかということです。行政コストに負担をかけずにできる仕組みを考えていきたいと思っています。機能を整備することは、必ずコストがかかるのです。そのコストを区民がどこまで負担するのか、どういう風に運営管理していくのかということを含めて議論したい。それを両方言わないと、将来に向けての基本構想の内容になっていかないと思いますので、この委員会で議論して、審議会の方に提案をするという形にしていきたいと思っています。今日は大変内容の豊かな良いプレゼンテーションでした。ありがとうございました。事務局から連絡事項等よろしくお願いいたします。

（事務局・吉田政策経営部副参事）

- ◆ ご議論をありがとうございました。本日の議事録については、10 日程度を目途にメール等で送らせていただきますので、ご確認の上、ご返送をお願いいたします。次回の日程ですが、7月3日（火）18時30分からブライトホールで開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。改めてご通知差し上げます。また、先ほど永井ふみ委員からお話が出ましたが、6月30日（土）の区民ワークショップにつきまして、政策研究担当課長田中よりご説明させていただきます。

（事務局・田中政策研究担当課長）

- ◆ 今ご案内申し上げました6月30日の市民ワークショップですが、1,200人の方にご案内を差し上げて、117人の方からお申し込みがありました。当日欠席される方もいるかもしれませんが、100名を超える方にご参加いただいてご議論いただくということになっています。ご通知はメール等で委員さんに差し上げていると思いますが、グループワークの時間が長いのですが、15時半から16時45分までの間に、各グループからおまとめいただいた今後20年の間に実現させたいことや、実現に向けて区民としてできることがテーマで、発表の時間を取る予定ですので、お忙しいところと思いますが、ぜひ傍聴していただければと思います。

（松島部会長）

- ◆ 次回第4回のテーマにつきましては、環境・エネルギー、芸術文化になっています。世田谷区環境審議会会長で、東京都市大学大学院環境情報学研究課教授の中原英樹さんを外部委員としてお招きして議論しようと思いますがいかがでしょうか。（意見なし）

- ◆ では、事務局の方で調整をお願いしたいと思います。これもちまして、本日の基本構想審議会第2部会は閉会いたします。長時間にわたり、ご議論いただきありがとうございました。

午後8時30分閉会